

平成 2 8 年度
第 1 回
竹原市都市再生協議会議事録
(概要版)

日時：平成 2 9 年 3 月 2 9 日 (水)
1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 4 5
場所：竹原市役所 3 階 委員会室

竹原市建設部都市整備課

○ 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 会長の選任, 副会長の選任

5 議事録の公表について

6 議 題

(1) 立地適正化計画検討体制について

(2) 竹原市の現状及び将来見通しにおける都市構造上の課題分析

(3) 竹原市立地適正化計画の策定にあたって

7 閉 会

○ 出席者 (12名)

大森 豊裕 委員

山岡 俊一 委員

今市 恵誉 委員

田島 智昭 委員

岡田 文夫 委員

平原 秀則 委員

菅野 拓郎 委員 (代理)

竹田 勝也 委員

荒川 幸子 委員

橋本 清勇 委員

富田 倫彦 アドバイザー

古居 隆 アドバイザー

○事務局

細場 副市長

谷岡 総務部長兼公営企業部長

中川 企画振興部長

宮地 市民生活部長

塚原 健康福祉課長 (代理)

久重 教育次長

有本 建設部長兼都市整備課長

《事務局庶務 都市整備課》

西吉 課長補佐

古川 係長

伊藤 主任技師

清水 技師

1 開会

○開会挨拶（事務局）

- ・配布資料の確認

2 挨拶

○事務局

・委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本市においては、全国のペースを上回るスピードで少子高齢化が進んでおり、将来のまちづくりをどのように持続可能なものにしていくかを様々な観点から検討していきたいと考えています。今回は様々な分野の方に参画していただき、竹原市をどのようにしていくかを本格的に考えていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

3 委員紹介

○委員紹介（事務局）

- ・委員の紹介

4 会長の選任，副会長の選任

○事務局

・竹原市都市再生協議会設置要綱第5条の規定では、会長及び副会長は委員の互選により選出することとなっておりますので、事務局から事前に各委員の皆様にお伺いさせていただきました。都市計画の分野がご専門で、長年都市計画審議会の会長を務めてこられた__委員をお願いしたいと考えていますが、宜しいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局

・会長に__委員を選任します。副会長の選任については、会長から推薦をお願いします。

○会長

・学識経験者の__委員を推薦します。

○事務局

・__委員を推薦するご発言がありましたが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○事務局

・副会長に__委員を選任します。早速ですが、会長にご挨拶いただき、議事の進行をお願いいたします。

○会長

・皆様のご協力を頂きながら職責を果たしたいと思っております。竹原市では昨年11月に第3次竹原市都市計画マスタープランを策定し、将来に向けて持続可能なまちづくりを実現するために、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めていくこととなっております。本協議会では都市計画マスタープランの詳細版となる立地適正化計画の策定およびその実施に関して必要な議論を進めたいと考えております。厳しい人口減少社会におきましても、将来にわたって持続的に生活サービスを提供し続けるために、重要な計画であると考えております。様々な分野の委員の皆様からの幅広いご意見をいただきまして、本計画の策定にご協力いただければと思っております。

5 議事録の公表について

○事務局

・計画内容や議論過程を市民に広く周知する必要があるため、議論の内容を集約した議事録、審議経過の状況写真、配布資料を市のホームページで公表したいと考えております。議論の要約内容は会長に一任します。

(「異議なし」の声あり)

○会長

・本協議会の議事録等は市のホームページで公表することとします。

6 議題

○会長

・次第の6、議題(1)立地適正化計画検討体制について事務局より説明をお願いします。

○事務局

・立地適正化計画策定に向けた検討体制について、資料1で説明いたします。

【資料1 事務局説明】

○会長

・ただいまの事務局の説明について、ご意見ををお願いします。

(「意見なし」)

○会長

・議題(2)竹原市の現状及び将来見通しにおける都市構造上の課題分析について事務局より説明をお願いします。

○事務局

・竹原市の現状及び将来見通しにおける都市構造上の課題分析について資料2で説明いたします。

【資料2 事務局説明】

○会長

- ・ただいまの事務局の説明について、ご意見をお願いします。

○副会長

- ・都市再生協議会ワーキングに参加している部署を教えてください。また、竹原市は観光が大きな役割を担っていると思いますが、観光に関係する部署は参加していますか。

○事務局

- ・事務局である都市整備課，総務課，財政課，企画政策課，産業振興課，市民課，まちづくり推進課，社会福祉課，健康福祉課，建設課，下水道課，水道課，教育振興課，文化生涯学習課の計14課です。産業振興課に農林水産，商工，観光の係があり，課を代表して課長，係長に参加していただいています。

○副会長

- ・市民の方がどのような交通手段で移動しているか等，交通に関する実態調査はされていますか。

○事務局

- ・交通の実態については，詳細に調べたいと考えており，来年度OD調査や利用実態調査を行い，ネットワークを考える上で交通モードや利用目的等を把握し，立地適正化計画に反映させたいと考えています。

○会長

- ・議題（3）の前に，立地適正化計画策定の背景，国の支援体制について，アドバイザーより説明をお願いします。

○アドバイザー

- ・全国的に人口減少，少子高齢化が進んでおり，どのように対応していくかが国全体としての課題となっており，「コンパクト・プラス・ネットワーク」により持続可能なまちづくりを推進し，支援していきたいと考えております。支援体制や制度について資料3で説明いたします。

【資料3 アドバイザー説明】

○会長

- ・立地適正化計画で居住誘導区域の指定から外れた区域については，区域内外で格差が生じることが懸念されますが，どのように扱うのですか。

○アドバイザー

・立地適正化計画は強制的に居住を誘導するものではなく、住民の方に対しては、居住誘導区域外であっても公共交通等により生活利便性は確保していく等の説明をしていただきたいと思っております。

○会長

・広島県内の立地適正化計画策定の取組状況について、アドバイザーより説明をお願いします。

○アドバイザー

・県内の立地適正化計画策定の取組状況について、資料4で説明いたします。

【資料4 アドバイザー説明】

○会長

・ただいまのアドバイザーの説明について、ご意見ををお願いします。

○委員

・都市部では計画策定に取り組んでいる自治体が多いですが、過疎化が進んでいる地域では少ないように思われます。何か理由はありますか。

○アドバイザー

・都市部でも広島市に隣接している府中町や海田町など、ベッドタウンとして人口密度を維持している自治体は、取組の検討段階となっております。県北地域については、中心部に都市としての拠点性があまりなく、計画の必要性について議論している自治体が多いのが現状です。

○会長

・議題（3）竹原市立地適正化計画の策定にあたってについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局

・竹原市立地適正化計画の概要について、資料5で説明いたします。

【資料5 事務局説明】

○会長

・ただいまの事務局の説明について、ご意見ををお願いします。

○委員

・国の支援施策の説明がありましたが、立地適正化計画では竹原市が行う事業や施策に関して、事業費等について具体的に検討していくのですか。

○事務局

・計画の中で必要な都市機能を設定していき、都市機能の整備については、制度を活用することを念頭において計画を策定しています。

○委員

・都市計画マスタープランでは「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進める上でネットワークの要が公共交通である鉄道、バス、タクシーとなっていますが、竹原市に住む高齢者は自家用車、自転車を利用する人が多く、交通ネットワークを考える上で対象となるのが鉄道、バス、タクシーだけでいいのか疑問に思います。また、鉄道であれば駅の階段やプラットホームの段差があること、バスであれば待合所が吹きさらしとなっていることなど、高齢者が利用しづらい状況となっています。そのような状況を改善することも含めて考えていますか。

○事務局

・立地適正化計画を策定する中で、各拠点内だけでは充足できない機能を補うには、拠点間のネットワークを考えていく必要があります、公共交通を念頭に考えていかなければならないと思っていますが、来年度交通実態調査を行うなかで、将来人口に対して公共交通にどの程度ニーズがあり、こういったものを維持していくべきなのかを検討していくことになると考えています。

○委員

・竹原駅周辺の地価が大きく下落していますが、立地適正化計画の中で、駅周辺の駅前商店街のあり方を検討していただきたい。駅前商店街では、近年店舗が撤退し、新規出店も少ないことから、今後益々地価が下がっていくのではないかと懸念しています。

○事務局

・立地適正化計画の中で取り込める部分と、市の他の施策で総合的にやらなければならないものがあり、本計画に取り組むものと、他の施策で取り組むものを取捨選択していきたいと思えます。また、行政だけでは解決できない部分もあり、お互いがどのように関わっていくのかも含めて議論していきたいと思えます。

○委員

・高齢化が進行する中で医療機関の必要性が高まっていると思えますが、竹原市では医療施設のない地域があり、商業施設と医療施設を組み合わせるなど、柔軟に検討していただきたい。

○事務局

・コンパクトなまちづくりの狙いとして歩いて暮らせるまちづくりがありますが、徒歩圏に医療機関があることがまちの魅力であると考えており、計画に反映させていきたいと思っています。

○委員

・地域コミュニティとして公民館は必要だと思いますが、竹原地区で公民館がない地域があり、高齢者の方が集まるような場所がない状況にあります。

○事務局

・公民館が近くにない地域もありますが、将来的に高齢化が進み、地域のコミュニティが変わっていく中で、どこに拠点を置くのかを議論していきたいと考えております。

○委員

・地域の福祉活動を進めていく中で、小さな拠点のあり方が重要だと思っています。公民館は住民レベルで様々な取組が行われており、まちづくりを進める上では欠かせないと考えています。

○委員

・公民館がない地域では、高齢者が集まる場所がなく、例えば町並み保存センターを公民館として使用するなど、何かしらの計画を作っていただきたい。

○副会長

・計画を策定する上では、人のつながりが大切だと思います。竹原市では協働のまちづくりを推進されていますが、どれくらいの住民自治組織があり、どのような活動をしているのか教えてください。

○事務局

・まちづくり協働のネットワークは市全体で17組織あり、防災、防犯、環境等に関する活動について、地域ごとに事業計画を策定し、実践されています。既存の自治会よりも広い範囲となっており、活動に応じて経費の補助をしています。

○会長

・本日の議事については以上です。進行を事務局にお返しします。

7 閉会

○事務局

・委員の皆様におかれましては、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。先ほど頂いたご意見につきましては、今回事務局として担当部長も同席していますので、整理していきたいと思っております。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。第2回竹原市都市再生協議会については、委員の皆様と日程調整をした上で、事務局よりご連絡させていただきます。以上をもちまして第1回竹原市都市再生協議会を閉会します。